

令和7年度第1回川崎市平和館運営委員会 会議録

- 1 開催日時 令和7年7月23日（水）午後3時30分から午後4時25分まで
- 2 開催場所 川崎市平和第1・2会議室
- 3 出席者 委員 堀委員、萩原委員、稲垣委員、草嶋委員、小松委員、老川委員、
田中委員、高岸委員
事務局 市民文化局 吉澤平和館長、亀山担当課長、暉峻専門調査員、
松井主任、長沼人権・男女共同参画室長、佐藤担当係長
健康福祉局 大西保健医療政策部健康増進課長、松井地域包括ケア
推進室主任
- 4 議題 (1) 令和6年度事業概要について
(2) 令和7年度平和館事業計画について
(3) その他
- 5 傍聴者 0人
- 6 会議内容

吉澤館長 定刻前ですが皆様お揃いになっておりますので、開始させていただいてよろしいでしょうか。

堀 会 長 ただいまから、令和7年度第1回川崎市平和館運営委員会を開催させていただきますと存じます。議事に入る前に事務局から報告があります。

吉澤館長 4月から平和館長を務めることになりました吉澤と申します。これから運営委員会に参加させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。委員の出席数について、報告させていただきます。

本委員会につきましては、川崎市平和館条例施行規則第16条の規定により「委員の過半数が出席しなければ開くことができない」とされております。現在、委員総数12名中、8名の委員に御出席いただいておりますので、本委員会が成立していますことを報告いたします。

なお、本日欠席の委員につきましては、欠席する旨の御連絡を事前に頂いております。

また、令和7年4月1日付けで1名、7月1日付で1名の委員の交代がございましたので、報告させていただきます。まず、4月に、市職員の委員として田中一平教育次長です。7月に、川崎市PTA連絡協議会からの推薦委員として老川素子委員です。

老川委員、田中委員これからどうぞよろしくお願いいたします。

次にこの会議ですが、「川崎市審議会等の会議の公開に関する条例」に定める会議公開の原則に基づき、公開とされており、傍聴を認めております。傍聴の方がおいでになりましたら、よろしくお願いいたします。

吉澤館長 続きまして事務局の職員を紹介させていただきます。

(事務局職員紹介)

(配布資料の確認)

事務局からの報告は以上です。

堀 会 長 それでは議事に入ります。本日の次第に沿って議事を進めて参りますので、委員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。まず、議事１の「令和６年度平和館事業概要」について、事務局から説明をお願いします。

吉澤館長 (資料２に基づき令和６年度平和館事業概要について説明)

堀 会 長 ただいまの説明について、御質問などありましたらお願いします。

老川委員 令和６年度の入館者数が前年度に比べて約 12,000 人増加しているとの説明がありましたが、どのような理由で増えたと分析されているのでしょうか。

吉澤館長 平和館を御存じの複数回来館者以外に来ていただかなければいけないので、JR のスタンプラリーが行われるということで、その対象施設として紹介していただくことで、数多くの方が来ていただいたということが一因であるかと考えます。

萩原副会長 事業概要 19 ページの団体見学者受入の内訳を拝見しますと、太字のところが学校で、市内の学校が 4 団体で、市外の学校が 3 団体、市外からも結構見学が来ているようですが、どのような理由だと考えていますか。

調査員 一つは武蔵小杉というロケーションにあるかと考えます。南武線は市内を結んでいます。そのほかに横須賀線、東急東横線といった東京方面からのアクセスがいいということがあります。もう一つはほかの自治体の学校が見学に来る際に午前と午後でローテーションを組んでいて、平和館以外にどこに行くかを聞いてみると、明治大学登戸研究所や民家園などで、市内の地域資源があるということだと考えます。

萩原副会長 平和学習の一環として来られるということですね。

堀 会 長 それでは次に議事の２「令和７年度平和館事業計画」について事務局から説明をお願いいたします。

吉澤館長 (資料３－１に基づき令和７年度平和館事業計画について説明)

調 査 員 (資料３－２に基づきミニ企画展第１回の実施結果について説明)

堀 会 長 ただいまの説明について、御質問などありましたらお願いします。

萩原副会長 質問ではなくて感想なのですが、私は現在世田谷区平和資料館の事業評価委員を務めさせていただいているのですが、平和を考えるとときには戦争が大きな柱となっており、どうしてもテクノロジー化した、巨大化した戦争とその時に生きた顔を持つ人々の痛み、等身大の部分とのギャップが大きすぎて、なかなか戦争の悲惨さから平和を考えるという間を埋めるのが難しいとずっと感じています。学校教育でそれを伝えていくとか、考えていくのは難しい中で、今回のこの様々な企画の話を伺うと、とりわけこのシンガポールのチャンギから考えるのはなかなか

かない。戦争の当事者の等身大の方々の生の声だとか、痛みだとか、記憶だとかをたどりながらも日本だけではなくてシンガポール側ではどう見ていたのか、実に様々な多角的かつ画期的な視点で、戦争に伴う痛みを考えさせられる企画をされているところが非常に勉強になりました。世田谷でも伝えたいと思いますし、共有して行って、どういうふうに戦争を扱っていったらいいのか、戦争と平和をどういう視点で、どういう発想で扱っていいのかなどという色々なヒントをいただきました。

調査員 戦争など過去の痛みの記憶を扱う企画を訪れた生徒がフィードバックとして「昔の人は大変だった。僕たちは平和で幸せだと思います。」という感想を述べたとしたら、その企画は恐らく平和教育・啓発としては失敗だと思います。等身大の体温を感じていないからこそ出てくる、まったくの別のこととして捉えているからこそ出てくる感想だと思います。今回の企画は偶然に川崎区の明長寺及び池上昭栄院に、さまざまな痛みの記憶を考えることができる資源が残っていたので、このような企画を実施できましたが、いつも集合的な痛みの記憶を伝えるためには苦慮しています。

草嶋委員 私も感想ですが、私たちがこうして繰り返し学習しながら次世代に伝えていこうとしているのかというのは、やはり戦争を起こさないためと思っています。80年前の戦争であんなに痛い思いをしたのに油断をするとまた繰り返す、生身の言葉として受け止められないことを踏まえて、戦争に加担する方に行ってしまうことに危機を感じています。そのためにも深く証言を掘り起こしていくことは必要だと思います。川崎空襲の際にも遺骨を進駐軍の缶詰に入れたという話をしてなぜなのかということを理解できない、伝えることは非常に難しい。理解してもらうには証言や血肉のついた説明が必要だと考えます。平和館の企画展示に触れるたびに私たちも学び直して後世に伝えていかなければならないと思っています。

老川委員 小杉エリアに17年くらい住んでいるのにこんなに多くの企画を行っていることを知らなかった。被爆ピアノの映画上映会や拉致被害者に関する展示を見たことはありますが、それが事業概要に載っていないのはなぜですか。主催が平和館ではなく、場所だけを貸しているということでしょうか。

吉澤館長 拉致被害者支援は人権男女・共同参画室が所管であるため、平和館の事業をまとめた事業概要には載っていないということになります。

老川委員 本当に多くの企画があって驚きました。ミニ企画展においてシンガポール側から見た日本軍について触れていて、今年は戦後80年で、日本は被害者側だったということを報道しますが、加害者側だったという側面もあるはずで、今回の企画展で植民地側だった逆の視点を紹介していることに驚きました。もっと逆側の視点の企画や報道が出てきたらと思います。

それから配布資料にあるチラシですが、これだけ多く企画しているのに私は初めて見ました。ホームページに載っていて、チラシもダウンロードできるというのは見たのですが、ここへきてはじめて見たということは、広報活動とかはどのようにされているのでしょうか。チラシの配布先はどういうところで、何枚くらい印刷されているのか、PRの方法が気になりました。子供たちにも行き渡るようになったらいいのかなと思います。子供が持って帰ってくるお便りにも全然入っていなかったのも、平和館に来るか、ホームページを見れば分かるのですが、ホームページを見に行かない人へのアプローチができるといいのかなと思いました。

調査員 ミニ企画展への感想について、戦争の痛みの記憶にはもたらされた痛みの記憶もありますが、もたらしてしまった痛みというのもあると、両方を感じることができないと、平和への啓発に繋がっていかない気がします。チラシは約1,500枚印刷しています。主には市の関連施設に配るルートがあります。広報の仕方というのは長年平和館でも課題と考えています。

老川委員 フェイスブックはやっていないのでしょうか。

調査員 過去にはやっていましたが、現在はやっておりません。広報部門を所管している総務企画局シティプロモーション推進室に情報提供してツイートしてもらうという間接的な広報を行っています。

吉澤館長 情報プラザを経由して、中原区ですと区役所、図書館、市民館などに配布したりしていますが、学校には直接配布していません。配布したチラシのうち子供向けについては、中原区内のこども文化センター10館に配布しています。今後もより多くのところに広報できるよう工夫してまいります。ただ、学校への情報伝達としてはGIGA端末にデータを飛ばして見てもらうという形です。どうしても見に行かないとなかなか取りにいけないということはあると思いますが、市がペーパーレスを進めているため紙媒体での広報は少なくなっています。

老川委員 GIGA端末を見てくださと言われていたことがありません。

田中委員 補足させていただきますと、去年、一昨年までは学校には平和館だけでなく無数にチラシの配布依頼がきていて、先生たちが配布していました。それをやめることにして、子供たちはGIGA端末で見れますし、親にはかわさきイベントアプリを入れていただいてそちらで御覧くださいということで整理させていただき、かわさきイベントアプリをダウンロードしてくださいという広報活動をしています。

堀会長 ミニ企画展はとても良い企画だと思います。授業をしながら戦争の被害、加害を伝えていくことは重要だと思います。ただ、実際にアジアと日本の戦争というと、日中韓という話になってしまうとちょっと硬直化してしまう中で、東南アジアがどうだったのかというふうに視点をずらすと色々な問題ももっと受け入れや

すくなると感じています。今回のようにシンガポール側がどういうふうを考えていたかというのはすんなり入る。東南アジアは占領されていた場所だし、南太平洋もですが、そういったところから戦争の加害と被害という問題を考えていくというのは非常に効果的だなと思っていて、是非続けていっていただきたいと思います。

個人的なアイデアだとフィリピンの日系人の方の戦後、戦前にダバオの麻農園に日本人が移民していく中で現地の方と日本人が結婚して家族を形成しますが、戦争が始まると父親は日本人なので戦争に取られる。フィリピンはアメリカ側に付きますから妻や子供は敵側として追われたり、逃げたりして、戦後に無国籍のままとか多くのドキュメンタリーがあるので、機会がありましたら。

堀 会 長 それでは、次に議事の3その他について事務局から何かありますか。

吉澤館長 次回の運営委員会は3月下旬に開催予定です。

堀 会 長 本日予定されていた議事は、以上で終了となります。これをもちまして平和館運営委員会を閉会いたします。